

神戸大学 DX 推進基本方針

神戸大学は、「学理と実際の調和」を建学の理念とし、進取と自由の精神がみなぎる学府である。「真摯・自由・協同」の学風のもと、真理の探究を旨として学問の継承と発展に寄与し、人々の智と徳を高め、もって社会の基盤を築き、産業・経済を活発にするとともに、諸問題の解決に貢献してきた。この伝統を継承するとともに人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命医学系諸分野における強みを社会に活かし、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを本学の長期ビジョンとしている。

昨今、あらゆるモノや情報などがデジタル化され、これまでにないスピードで新たなサービスや付加価値が次々と生まれるなど、デジタル技術の進歩は目覚ましい。このような急速に変化する社会において、本学の長期ビジョンを効果的かつ効率的に実現するためには、研究教育活動、そしてそれを支える事務業務におけるデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という。）の推進が不可欠である。そこで、大学全体としての DX 活用の狙いや方向性、推進構想・計画の策定・立案・戦略的推進を担う組織として、DX・情報統括本部が設置された。

今後、本学では、これまで着実に整備を進めてきた基盤システムをベースとしつつ、全体最適の視点から新たなデジタル技術の積極的な活用による既存システムの見直し等をも視野に入れ、DX・情報統括本部を核とする DX 推進の基本方針を以下の通り定める。

【基本方針】

本学における DX 推進は、単なる改善やデジタル化の推進に留まることなく、分野および組織の壁を越えた協力関係を発展させた取組として、俯瞰的な視座からあるべき姿を見定めた上で、これを実現するための課題を抽出・明確化するというアプローチのもとに進める変革を前提とする。

この変革によって、大学における創造的活動・知的活動を楽しむための場や時間を確保し、価値創造のポテンシャルである『知』の創成、有能『人材』の育成、卓越『環境』の創出を実現する。これらを通じて持続可能な社会の発展に貢献し、ひいては神戸大学のプレゼンス向上に資することを目指す。

DX の推進にあたっては、教育、研究、および業務において、それぞれ取組事例の調査、あるべき姿の検討、課題の抽出等を行い、個別課題の解決をプロジェクトベースで進める。このプロジェクトの活動においては、組織の壁を越えて議論するというムードを醸成し、DX・情報統括本部と関連部局との共創・協働によって、課題解決方策ならびにその実装方法・管理運用体制について検討するものとする。

教育 DX

時間、空間、分野、世代などの様々な制約を超越した創造的な学びを実現するため、教育環境・教育支援、学修効果増進・学修管理等を対象に、以下のような方針のもとで DX 推進活動を展開する。

- **インタラクティブな学び**：デジタル活用による教室での学びに留まらない新たな学修形態の創成や、知識獲得型授業の効果的・効率的な実施に伴うゆとりの創出によって、学生と教員、学生と学生とのインタラクティブな学びの場を拡充する。
- **ボーダレスな学び**：国・地域や分野、世代の障壁・制約を取り除き、他分野の学生や教員、学外の学生や社会人、海外や国内に居住する研究者など、多様な人々が参加でき、共修できるボーダレスな学びの機会を提供する。
- **シンプルな仕組み**：学びの仕組みや基盤をシンプルなものとし、学生や教員にとってわかりやすく親しみやすいものとすることによって、学修や教育そのものに集中できる環境を構築する。

研究 DX

卓越した研究成果を創出・共創する知の集積や、社会課題解決・新領域開拓のための異分野共創研究を加速するため、研究企画、研究環境等を対象に、以下のような方針のもとで DX 推進活動を展開する。

- **多様なコネクション**：研究成果はもとより学術上の関心や資源を可視化し、発信・共有するとともに、国内外の先端を走る研究者、学内の他分野の研究者、企業の研究開発者など多様な人々が集い、交流できるサイバー空間やマッチング基盤を提供する。
- **スマートな研究推進**：シミュレーションやデータサイエンスを用いた新たな研究スタイルを支える基盤と、分野や組織を横断して多様な研究者が参画する共創研究をより柔軟かつ高密度に推進できるデジタル環境を構築する。

業務 DX

大学の構成員が、より多くの時間を創造的活動や知的活動に充てられるよう、教育、入試、研究、国際交流、産官学連携、地域連携、広報、施設整備、財務、人事等の業務全般を対象に、以下のような方針のもとで DX 推進活動を展開する。

- **高度・良質な業務**：戦略的な大学経営に資するため、従来の組織や規則、仕事の仕方にとらわれず、ニューノーマル時代に合った多様な働き方を実現する環境を創生し、部署間連携や教職協働の強化をベースに情報の効果的活用と高付加価値業務へのシフトを推進する。
- **効率的・簡素な業務**：UX/UI (User Experience/User Interface) の観点から、デジタル三原則（デジタルファースト、ワンスオンリー、コネクテッド・ワンストップ）を念頭に、ゼロベース思考で業務の簡素化・効率化を推進する。